

## ■ 第4回 新潟駅万代広場等整備検討委員会

日時：平成30年3月19日（月）13：00～15：00

会場：新潟市役所本館6階 講堂

（司 会）

ただいまから第4回新潟駅万代広場等整備検討委員会を開会いたします。

私は本日の進行役を務めます新潟市新潟駅周辺事務所の桑原です。よろしくお願ひいたします。

会議に入ります前に、お手元の資料の確認をしたいと思います。お手元の資料の次第に配付資料を記載しております。まず、次第、本日の出席者名簿、本日の座席表。資料1「新潟都心の都市デザイン」、資料2「広場計画のコンセプト及び計画案について」、資料3「万代広場の将来の方向性」、参考資料「万代広場の整備方針」です。

以上になります。不足等は大丈夫でしょうか。

本日の委員の出席状況を報告させていただきます。本日、窪田委員におかれましては所用のため欠席でございます。

また、代理出席につきましては、お手元の出席者名簿の記載のとおりとなっております。よろしくお願ひいたします。

また、本日の委員会につきましては、非公開とさせていただくことを確認いたします。理由としましては、今回も引き続き交通事業者あるいは交通管理者との協議未了案件があり、本委員会での議論の内容が正式案あるいは最終案と誤解され兼ねないため、本日の会議を非公開とさせていただきます。

引き続き、本委員会を進めていただきたいと思います。次第の2以降につきましては、佐野委員長から進行をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

（委員長）

次第2の「意見交換」です。はじめに、①新潟都心の都市デザインについて、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）

都市計画課の石井と申します。よろしくお願ひいたします。

お手元の資料1をご覧ください。これは、当委員会第1回におきまして、拠点化に向けた都市デザインの基本的な考え方を説明させていただいております。主な内容といたしましては、拠点化に向けて取り組むべき課題、古町地区、新潟駅周辺地区、万代・万代島地区等に

において、今後の方向性についてお示ししたものでございます。

もう一つの動きといたしまして、新潟都心の都市デザイン次の150年に向けて、において拠点化に向けた全体像をまとめているところでございます。これは、この会議の後にまちづくり懇談会を開催いたしますけれども、そこで使用する資料でもございますが、今後の都市デザインの基本的な考え方についてまとめているものでございます。

その内容について説明させていただきます。1の「はじめに」でございますけれども、①なぜ都市デザインを描くか。この関係につきましましては、新潟市は来年度開港150周年や新潟駅の高架駅第一期開業など新潟市のまちづくりにおいて大きな節目を迎えます。都市デザインのポイントといたしまして、これまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、その市民の暮らしと結びつくような魅力ある新潟のイメージが持てるデザインを目指していこうというものでございます。②都市デザインを描くために。開港から150周年のこの節目を振り返ってみようということで、150年サイクルで歴史を振り返りつつ描いたものですが、かつて新潟町といたしまして、赤く新潟町と書いてございますけれども、現在の東中通よりも海岸よりのところにかつてあったというものが真ん中になりますけれども、明暦元年（1655年）に新潟のまちとして現在の位置に移転いたしました。その後、開港150ということで1869年に開港したという流れがございます。基本的な考え方といたしまして、信濃川の恵みにより発展してきた新潟市は川からの砂や水の対応を通じて形成してきたということと、一方で信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで新潟市の発展を築きあげてきたところでございます。

新潟都心の都市構造の変遷と混合ということでございますけれども、基本的には先ほどの新潟のまち移転した場所が真ん中の図面の上になりますけれども、①と書いてあります紫色の大きく括った着色範囲などと併せまして、②の河口部に向けて砂が堆積しながらまちが発展してきたという関係と、その後③になりますけれども、川沿いに鉄工所や造船所が作られ、鉄道ができつながることで産業都市としての顔をもつようになり、④でございまして、近代港が構築され、⑤で万代シティ、やすらぎ堤という賑わいや憩いの場所と層状にできあがってきたという成り立ち。または、左側縦軸といたしまして、当時の新潟町におきまして信濃川に直行する堀、信濃川と平行して堀、または直行する小路を入れながらまちを作り、そして新潟町と沼垂町が万代橋によってしっかりつながり、その後万代橋と新潟の奉行所跡をつなぎながら都市計画の、昭和の都市計画でしっかりと位置づけ拡幅しながら軸が形成され、または東大通が新しい駅に結びつくという流れの中でしっかりとしたメインストリートになってきたという流れがございまして、②の今後の都市デザインでございまして、新潟の都心は信濃川に向かって層状に広がってきた市街地が縦の軸によって深くつながり発

展したと。開港から150年、新潟都心は信濃川に向かって面的に復調し、その空間を高度化、機能化しているという中で、これからの都市デザインはみなとまちとしての発展の歴史を歩行者公共交通で移動する人が実感できる信濃川や、港を核としたまちづくりを展開していこうという考えをまとめたところでございます。

新潟都心の都市デザインでございますけれども、先ほど来お話させていただきました新潟を特徴づけてきた奉行所から始まる縦の都市づくりは、150年かけて新潟駅とつながってきたということで、開港150周年を契機に今度は新潟駅から高架駅開業の契機でもありますけれども、地域と地域への愛着と誇りが醸成するような人を中心とする新しい新潟の近代軸を考えていこうということで、新潟駅から始まる新しい新潟の軸ということで都市構造を構築していこうという考え方をもっているところでございます。

また参考までに、新潟駅から古町までは約2キロございまして、これは例えば、隣にありますパリのシャンゼリゼ通り3キロや、札幌の大通り公園約1.5キロ。これら象徴する大きなメインストリートのようなになればまた位置づけとしても目指したいというところでございます。

また下の新潟駅から始まる取組みでございますけれども、左側下になります旧市外ゾーンといたしまして、それぞれの赤い丸で節々をポイントとしておりますけれども、古町から鏡橋のゾーンにつきましては、旧市外ゾーンということで江戸から続く小路、みなとまち歴史が感じられる通り。また鏡橋から万代橋東詰につきましては開花ゾーン。万代橋東詰から流作場までは新市街ゾーン。流作場から新潟駅までは玄関口ゾーンということでそれぞれをゾーンニングするとともに、また新潟駅周辺地区、万代広場などいたしましたは、風格と個性がありそこからまちなかへ歩き出したくなる環境を強化していきたいという緑色のゾーン。または、左側といたしまして、副軸といたしまして、水辺・賑わいゾーンとしまして弁天通商店街、ガルベストーン通り等の通りを含むエリアになりますけれども、沿道の店舗と連携した賑わいを感じられる通り。または右側、港・創造ゾーンといたしましては、花園または沼垂小路のほうになりますけれども、大規模な商業的な西側とは異なり、何かが創り出されるような雰囲気的空間が続く通りというものを目指してイメージしていこうということで、現在都市デザインの作業については今進めているところでございます。

以上、都市デザインの動きについてご説明させていただきました。

(委員長)

ありがとうございました。ただいまご説明のありました内容につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

(佐野委員長)



言葉がいいかどうか分かりませんが、それが最上位の決定の場になるとすれば、その図でいうと下のほうに、万代広場の検討委員会、そのほか新潟西港等の水辺のあり方を考える新潟水辺まちづくり協議会、全体の交通について考えていただく交通戦略プランの検討委員会、さらには、新潟駅南口広場についても利用の検討委員会を考えていくということで、いくつかの委員会が並列にあって、その並列の委員会の中で情報をやり取りさせていただきながら一つにまとめていきたいと思っています。その並列の委員会の後先がどうあるべきかというところが、進め方の中で若干前後している部分がございます、なかなかその辺がうまくいかなかったところおわび申し上げなければならないのですが、今日の検討委員会が終わった後、今説明した内容についてもご協議いただく拠点化についての委員会があるというような流れとなっております。

(上山委員)

今、並列にあると言われましたけれども、やはり横軸を通していかないと、総合的なものですから、ぜひその辺は今後よろしくお願ひしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。また、この後の委員会でもそうしたお話あるかもしれませんし、後ほどお話あるかもしれませんけれども、今日の委員会は今年度の最後になりますけれども、皆様にもいろいろな形で情報提供させていただきながらご意見伺う場が出てくるかと思しますので、その横軸は引き続き持っていたいと思っています。

(委員長)

横軸もさることながら、上のところにしっかり何度も意見をいただいてみたい、いろいろな方法あると思うので、ぜひよろしくお願ひいたします。

ほかにございますでしょうか。

最後にまとめて意見を伺う機会も設けさせていただきたいと思いますので、とりあえず②広場計画のコンセプトおよび計画案について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

資料2をご覧ください。これまでの委員会でも広場の設計者の皆様から計画の考え方、あるいは基本コンセプトなどについて説明していただきましたが、本日改めて基本コンセプトや現在考えている整備後の広場のイメージにつきまして、設計者の皆様から説明いただきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

(堀越共同体：堀越)

設計者を代表しまして堀越から全体の話をしていただきたいと思います。お手元にペーパーありますけれども、パワーポイントも見ていただいて説明したいと思います。

今思えば 2002 年ですから、16 年前のコンペのときからの案を継続しているわけですが、一番最初のキーワードとして、「人・交通・自然が気持ちよく循環する『都市の庭』」というテーマを出させていただいております。交通の機能としての駅ではありますけれども、都市の庭として機能して人々が集まるということが新潟の顔になるということを提案させていただいております。

最初の絵は、最新の状態で東大通りへつながっていく絵です。一度これは進めさせていただいて、コンペのときのイメージをもう一回再確認でございます。第 1 回のときに一度ご説明しましたがけれども、レビューです。コンペのときには、これは南口ですけれども、デッキがかなり中心的なもので、この変遷は後ほど説明させていただきます。今の上位計画と同じようなことを 2002 年から我々も考えておまして、新潟駅の北のほうの問題はもちろんあると同時に、新潟駅の南側の潟のほうまで広がる新潟の広い領域に対しての軸が途切れていると思いましたので、コンペのときには、新潟駅をつくることでさらに途切れてしまうのではなく、南北をつなげていくイメージを駅に持たせようと。分離の状態をつなげる方向にもっていこうということでございます。

現実的には、この絵のように真ん中に鉄道がございますので、万代広場と南口広場とに分かれるのですが、ただこれは JR としても人々が流通する駅ですので、当然、南北に人々が移動するということがありますので、まずは新潟駅の特徴として、駅に着いたら真ん中に人々の居場所があると。多くの鉄道の駅も今は少しずつ変わってきてはいますけれども、どうしても、駅を降りると雑多な、車のごった返す道路のアスファルトが見えることが多いと思います。しかし新潟駅に着いたら新潟駅の真ん中が都市の庭になっているといったイメージを与えることで、安全に人々が循環できる場所であり南北につながることをコンペで提案させていただいております。

さらに、多くの人々が集まる場所からそれぞれのまちに向かって伸びていくためのスムーズな動線ということで、当初はデッキ、地上部分両方を考えておりました。この都市の庭という概念も、単純に公園ではなくて、樹木を時と共にみんなで育てていくと。新潟では万代広場に柳を提案しております。そして南口広場はけやき通りがありますので、けやきを提案しています。地域にあった樹木を人々が育てて大きくしていくと。今日も 300 年という計が出ていましたけれども、長い時間をかけて都市を育てていく象徴として、駅を降りたら新潟らしい、地域を象徴する木が育っていくことをイメージしております。

これまでは、コンペの概略の振り返りでございまして、現状の万代広場、中央広場、デザインコンセプトを説明させていただきます。最初のシーンに戻りますけれども、二階のデッキから東大通、都市軸方向を望んだ絵として、現状の東大通の交通を制限し中央の並木を移

設し、道の両側の歩道を並木道として広げ、シャンゼリゼのように中央は見通しがよく両側に広い歩道を設けて視線が万代橋方向につながっていくと。そうすることで手前の駅前広場から都市に向かって軸線が見えることをこの絵は示しております。東大通りの中央から、道に関してはさっぱりとした印象になりますけれども、このように駅に向かって印象的な並木道の軸線ができてくると思います。現在は真ん中に植えられている木を移植すると考えて、いちよう並木になっています。二列植えで植えるとういう広がりのある感じになってくると思います。歩行者のゾーンから見ると、広く歩きやすい場所が駅から伸びていくイメージをここでは示しております。

中央に見えますのが新しい駅舎のファサードになります。現状はまだ最終的な道路整備ができていませんので、ここまでの顔は見えにくいかもしれませんが、将来的には駅の顔となる大屋根が中心に見えてきます。手前には樹木が作り出す緑の天蓋があり、その奥に駅の広場に面した大屋根が見えている状況でございます。近づきまして、駅の真ん中の広場に立つところです。ここが樹木に覆われている緑の天蓋という場所でありましてけれども、中央には少し広い空が見える場所があって、ここではいろいろなイベントが行われることを期待しております。駅に着いたときに賑わいがここにあり、それがまちにつながっていくイメージを作り出すということでございます。センターに見える白い屋根が今回提案した大屋根でございます。少し斜めになっていますけれども、実はJRの線と都市の軸は直角ではなく角度を持って振れていますので少し複雑な形態となります。しかし、そのことが逆に、ダイナミックなイメージの大屋根がシンボリックに見えてくるようになるのではないかと考えております。

今回、中央部分にエスカレーターと階段をセットにした分かりやすい乗降動線が生まれておりまして、改札のある上階からもすっと降りてきて広場に出られる。地上からも視認性のよいエスカレーター、階段、エレベーターが中央部分にあります。東側にはエレベーターがありますので、エスカレーターと階段とセットで様々な場面で上に昇ったり降りたりできると。見上げると非常にプレーンな白い大屋根があります。南口は緑の山々が広がるのと日差しが強いので木のイメージを持ったルーバーを設けましたけれども、万代側はむしろ水平のプレーンな面で信濃川とか海とか日本海の水平をイメージしたきれいな水平面を天井にもってきたデザインでございます。続いて、2階デッキのJR側の改札口のコンコース側から抜けるところです。北に向かってコンコースから、東大通が奥に見えています。このようにスムーズに駅舎から出て、そこにエスカレーターと階段が見えて下に降りていけるというところです。東西デッキの東側から今の広場と大屋根を見たところでございます。全体を理解するため、少し離れた位置から見てみますと、手前に東側のバス乗り場がありまして、その向

こう側に大屋根があって緑の広場が右側に見えます。左が今回新しくできます駅のファサードになります。大屋根はわずかに勾配をとって、雪、雨に備えてここに水を集めており、非常に機能的で、そしてシャープに見えるように構造体を天井の上側に隠しております。

これは、私が設計した大学の校舎の写真ですけれども、この仕上げのイメージを参考に考えています。アルミハニカムパネルですが単純に艶を出した仕上げにすることで、この大学の写真のように大屋根のイメージが、新潟駅に人々が集まる活気あるアクティビティを映し込めるようなイメージの屋根も考えています。そして、水平に広がる日本海とか信濃川の瑞々しさを感じるような透明感のある屋根のイメージを提案しようとしています。屋根が白いものですから、例えばプロジェクションマッピングなどさまざまなイベントのための背景としても屋根が使えるのではないかと考えています。有明の展示場や金沢駅でもプロジェクションマッピングをイベントのときにやっているようですけれども、ここではそれ以上に頻繁にそういったことが出来るのではないかと考えます。あるいは、照明によって春、夏、秋、冬がきたときに、今はLEDで本当に簡単に色彩の調整ができますから、春に来たらこんな色になったとか、来るたびに驚きを与える駅になり得るか。そんなにお金をかけなくてもコンピューター制御の照明でできるかと。一階部分から見たときのイメージです。一階部分、まだJR等のいろいろな情報ももらっていませんので、例えばこの辺りからJRから抜けてくる一階の入口があるとすれば、そこから東大通りに向けて道がつながっていくのではないかと。反対側のバス停の近いところから、一階から顔を出すとバス停と広場として並木道があって同じように東大通りに伸びていくと考えます。全体の関係がシンプルにかつ分かりやすくできることを目標に現在の構成をしております。

ここから先は、都市計画の中野から説明をさせていただきます。

(堀越共同体：中野)

2017年度、ペDESTリアンデッキにつきましては基本設計作業を進行中で、そこに至る過程を説明させていただきたいと思います。まず、15年前ですが、2002年度のコンペの段階ではこのような提案でした。当時はペDESTリアンデッキが東西ペデ、南北ペデ、斜めのペデの形で、連続していく考え方でした。これが、地上部です。地上部もバスターミナルは島式から両側型に変わっていますが、初期の段階はこのような提案でした。

先ほど堀越さんから説明ありましたが、都市軸に沿った形で中央に歩行者の広場を提案したのがコンペで評価された点ではないかと思えます。それを受けて2004年度の基本設計はこのような形でまとめさせていただきました。これは地上部です。それが少しずつ時代とともに、また市民ワークショップを行っていく中で変わってきました。その一つの要因としては、駅の利用客数が当初想定したものほど伸びていないということ、それにあわせて歩行者



交通量などいろいろなデータの解析が関連調査で行われてきました。交通の流れも、この菱潟線・佐源太線という駅前を東西に貫いている道がありますが、当初は二方通行を前提としていたものが一方通行に決まりましたので、それを受ける形で交差点検討を行ってきました。

市民ワークショップの中で、雪が多い、風が強いという意見があり、風が通らないような形で屋根を大きく、風除けをつける、防風壁を追加などの要望を基に計画を変更しました。その関係でペDESTリアンデッキはかなり重装備になってきたのが、その時点の計画です。それは結果として、概算事業費が高額なものとなりました。バスターミナルの部分も路側型に切り替えるというのが変更点です。

2013 年度には重装備のものを見直し、また南北のペDESTリアンデッキはやめ、東西に特化する方向で、このような提案に変わりました。ここにエスカレーター、エレベーター1基ずつ計2基を対で設け、ガラスの屋根付きの施設に収納する案に変わりました。それを受ける形で全体計画の調整を行いました。

実は、駅舎側の平面計画がまだ公開されていませんが、駅舎の意匠監修作業の中で、縦動線の位置が提示され、それを見ますと、ここにエスカレーターが設けられ、デッキ階の2階から1階に降りる位置が確定しました。それを前提とした場合、一番メインになるエスカレーターが全体の中央の部分に出て来ます。

一方で、広場計画ではエスカレーター、階段、エレベーターをそれぞれ対に設け、そこにワークショップ住民要望から公衆便所と倉庫を用意しました。それが、JR側の主動線の正面にくることが問題と考え、検討したのが次のプロセスです。

ここにエレベーター、エスカレーターが対にあり、バスターミナルの部分にもエレベーター、エスカレーターが対に出てきます。JRの用地内にも同じものがあり、縦動線施設が集中するという指摘、全体のコストとの関係も含めて見直すことにしました。なるべくJR動線の正面部分は解放するよう大きな変更を行いました。正面は明るく、なおかつ動線が錯綜するおそれがある部分には障害物を置かないというのが今回の変更の骨子です。それを受ける形で、ペDESTリアンデッキはパース図のように、中央のエスカレーターと階段を降ろし、地上部は中央からどちら方向にも自由に行ける。なおかつ広場がゆったり設える方向に変更させていただきたい、それが今日の説明です。

なお、JRの敷地内2階部分は、ここが通路になり、西側の部分にも1か所通路が確保され、改札口はこの両側に西側改札、東側改札、おそらくここがメインの通路になるのではないかと思います。メインの通路から地上部に速やかに降ろすという考え方で、なるべくここを単純な構成とするという提案です。その前提で、JRの出入口の真正面からはなるべく駅前広場の広い緑の空間が見えるような形でまとめつつあります。

引き続きまして、中央広場のランドスケープデザインにおきましては、佐々木さんから説明をしていただきます。

(堀越共同体：佐々木)

広場のコンセプトの説明をさせていただきます。基本的に堀越さんが説明されましたように、コンペの意識として、都市の庭を造っていこうということを基本的に踏襲しております。南北に異なった広場として計画しようと。万代広場の周辺は、やはり業務と産業、また観光が中心となった広場になります。数多くのビジネス客や観光客がたくさん来られる。それに対して、玄関口としての顔の一つ作っていくことがテーマになります。

一方、反対のほうは、基本的には市民や来訪者、市民そのものの陽だまりのようなもの。冬には陽だまりがあって、夏には木陰があると。そういうようなものも屋外施設として利用されるような空間としてやっていこうということを考えております。例えば南口広場の写真がございますけれども、ここにはけやきを入れているわけです。今回の万代広場につきましては、柳の広場を作っていこうというコンペのときの提案でございます。歩行者動線と対流空間を明快に区分するゾーンを構成しようということで、交流が活発化するような大規模イベントができるような空間として設計しております。

新潟らしさといったら何かというようなことでございますけれども、水都の新潟というのは、昔から堀を中心として栄えてきた名残が現在でも残っております。そのために水都新潟を象徴とする水景、信濃川へ向けた緩やかな流れを広場の中にも創出したいと思っております。柳都新潟を象徴する枝垂れ柳が周辺にあるということテーマにしたいと思っております。水と柳が織りなす美しい新潟の原風景を新潟の玄関口・万代広場のおもてなしの風景として創造したいと思っております。

新潟らしさの演出のもう一つのテーマですけれども、土地の記憶の継承ということがございます。新潟では古くから石油と天然ガスが生産されておりました。古くから地域の発展に寄与してきた歴史がございます。そういう歴史を背景に、民間企業団体が母体となり、「新潟市に瓦斯灯を設置する会」と新潟市が一体となり、駅前広場から東大通りにかけて 22 基のガス灯が設置されました。今回の広場においても 8 基のガス灯。大が 2 基、小が 6 基を土地の記憶の継承として移設活用することになります。さらに、新たな新潟らしさを創るということで、市民の人たちに広場を活用したマルシェ。写真の右下にありますように新潟の食・酒に関するマルシェのイメージがございますけれども、このようなイベントができるような広場、柳の木の下でそういうことができるような広場を作っていきたいと思っております。

それらをまとめたのがこの図面でございます。小さくて分かりにくいと思いますが、先ほど言いましたガス灯 2 基がこれです。これが中央のイベント広場として、表面から

平均レベルから 40 センチ上がっているわけです。40 センチですから、椅子の高さですから、ここに市民が座ることもできます。イベントの舞台ですから、ここに人々が座って出ることができるわけです。万代広場のプラザは床照明が夜点灯するようになっております。光の広場になります。この下の辺りにガス灯が 6 基入っております。柳の下の横にあります。これが掘割で、足下に柳のモールがあります。こちらがバスの乗降場になります。裏に柳のエッジがございまして植栽ができています。ここには水盤がございまして、水の中の、水都新潟を象徴とする水性植物を入れるようになっております。夜はLEDでライトアップする設計になっております。

もう少し詳しく配置を説明いたします。例えば屋台やテントはどこに置くかといいますとここなのです。それぞれ、4テント、4テント入るようになっております。イベント広場がこの真ん中にあるわけです。パラソルとかテラス空間というものがここに置けると。オープンカフェやビアガーデン等がこの赤い広場になります。これが、イベントのときです。飲食のイベントです。物販のフリーマーケットは、中央のこのブルーのラインで囲まれたところにフリーマーケット空間が 1,500 m<sup>2</sup>できます。展示や絵画展などができるような空間になります。

もう一つは音楽系イベントです。これはもちろんこの中央のステージでやるのですけれども、だいたい私たちの顔を認識できる距離は 24 メートルと言われております。この赤の軸の範囲がちょうど 24 メートルあるのです。この範囲に観客席が入る。観客席は全体として 580 m<sup>2</sup>あります。例えば立ち見が 400 人から 500 人、椅子席だったら 200 人か 250 人が入れるだろうと思います。もし椅子席が並ぶようになりまして、その周辺の柳の間からも人が立ち見で見ることができるといような空間であります。駅を降りるとさまざまなイベントが柳の向こうで広がっているといような空間になります。

これは歩行者動線計画ですけれども、左のほうは平常時です。矢印の空間で、線ですね、これが人の歩行者動線になります。この赤の軸はベンチがあるところ。歩行者動線は、この広場を歩いて左右に分かれて通っていきける。イベント時には、この中央のところに人々が入って行けませんから、東大通りの軸線に向かって人々が歩ける空間を中心として進めていきたいと思っております。このように明快なゾーン構成をすることによって、冬であっても空間を利用できるようにしたいと思っておりますし、例えば主要動線の下は全部ロードヒーティングが入るようになっております。また雪のときには、水景施設自体を堆雪帯として活用することを考えております。

最後ですけれども、基本的に枝垂れ柳でいかに天蓋を形成するかということなのです。これは断面図ですけれども、6メートルピッチで入る部分とか、5.1メートル、4メートル、

4.5 メートルと入る部分がございます。歩行者の通行を妨げない幅に設定し、舗装デザインを基準として一定間隔に設定すると。さらに、柳の木の足下には常緑低木花木、寒椿などを植栽し冬でも緑が感じられるようにしたいと思います。工事の際の植栽の客土については土壌検査をきちんと行っていきたく。柳は水に対しては強いのですけれども、根茎誘導耐圧基盤というものをきちんと作っていかねばならないと考えております。植栽基盤の排水性が悪いと判断された場合には、透水層や砂、暗渠排水等の敷設を考えております。この写真は、中国の有名な西湖十景の中に入っている柳の広場です。この柳はだいたい 4.5m ピッチで入っていきまして、非常に美しく、西湖の名勝になっております。柳浪聞鶯（リウランウェンイン）といいまして、柳の空間として作られているわけです。基本的に冬の間には道路の柳、新潟の柳というものは完全にカットしてしまっていて坊主になっています。そういうやり方ではしないと。街路の車の動線を意識したやり方ですけども、今回は広場です。そこまで刈り込まずに、ほとんど人の目線の高さくらいまで刈っておく、そうすると冬でもゆったりとした緑が見えてきます。京都の出町柳の柳は今でもきれいな緑が出ています。そのようなやり方をすることによって、管理をすれば非常に美しい空間になってくると考えております。

広場についての説明はこれで終わりでございます。ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。ただいまのご説明にありました内容につきまして、ご質問やご意見がございましたら、お願いいたします。

(橋本委員)

新潟大学の橋本です。

公園の素晴らしい写真を見せてもらおうと、柳の雰囲気が出ていて素晴らしい広場になるのではないかと考えています。柳の向き不向き、水に強い柳、この中で土地改良というものが出来きそうなことを想像して文章にも書かれているのですけれども、新潟市のような場所は具体的にどうなのでしょう。事例の中で、大丈夫なのか、もう少し説明をお聞きしたいと思ひ発言しました。

(堀越共同体：佐々木)

現在の新潟駅前、万代広場は柳がずっと植わってきています。それ自身は管理があまりよくなくて、一部壊死をしております。現在、新潟市の街路樹でも柳が使われているわけです。ただ、南口広場のけやきの成長のあり方を見ていますと、南口の場合はやはり水位が高くてうまく育っていないということも考えまして、土壌の基本的な土壌硬度の適正を確認することが一番大事なことだと思います。それから水位をきちんと考えることによって、植

裁客土を検討しながら設計を進めていきたいと思っております。

(橋本委員)

相当な予算がかかるのでしょうか。この高木の 6m、7m に耐えられるのか。そこが私はすごく気になっているところなのです。

(堀越共同体：佐々木)

それほどかかりません。

(橋本委員)

そこまで、かからないですか。

(堀越共同体：佐々木)

建築ほどかかりません。

(森田オブザーバー)

新潟県警察の森田と申します。よろしく申し上げます。

最後のほうで少し説明ありました、イベント時に通行の動線を明確に切り分けるというようなお説明でしたが、何か物理的に切り分けるようなイメージでお考えなのでしょうか。

(堀越共同体：佐々木)

例えば、誘導の際の空間ということですか。そういうことを基本にしたいと思います。できれば、あまりやりたくないけれども、ロープを張るということになります。

(堀越共同体：中野)

南口の例をご説明しますと、要はイベントのときに使う空間と通行空間をきちんと明確化するという条件がありましたので、埋込式のボラードを置けるような穴をつけています。そこにボラードを立てられるように、柵を立てられるような穴を開けておりますので、そこでロープを張ると簡単に区画できます。今のところイベントのときなどきちんと通行者との区別ができていますので、わざわざ柵をつけない状態にはなっています。おそらく万代広場についても、同じようなものを入れることになろうかと思えます。

(上山委員)

今日は非常にいろいろなことがよく分かりました。今まで、こういったご説明があったら、多分皆さんも納得されたのではないかと思えました。一番最初に屋根のお話を伺って、屋根のこれからの未来性といいますか、その中にやはり土地の記憶というプログラムをどう組んでいくかというところで話が出ていましたが、マネジメント組織を早く立ち上げていただかないと、いいアイデアも具体にはつながっていかないということを強く感じました。

中野さんの説明の中で気がついたのは、駅からぱっと出たときに変なものが見えないようにという意図を伺いました。よくあそこまでその考えを貫かれましたよね。横浜で失敗して

いますので。委員会で、どうしてあの目障りな階段がとれないのだと、何年もやっていても結局、1番最初の判断が間違っただけはなかなか直せません。そこをきちんとデザインの判断をされたということは、時間軸でこれから名所となる駅へとなくなっていくと思うのです。ずっと一本で降りて行くというシンプルシティなデザインも非常にきれいだと思います。最後にランドスケープのお話、柳の港にずっと入りこむようなご説明で、うっとり皆さんに柳都のイメージが伝わってきたと思います。柳もきちんと手入れすればいいのだという、それもどうやってメンテナンスしていくかというところがキーであるということ。非常に今日はよく分かったのですけれども、一つだけ質問したいことがあります。それは、前の会議のときにランドアート性ということを申し上げたと思うのですけれども、一番最初のコンペのときに、あそこに大きなたまごの形があったのです。全体がすごくシンプルできれいな広場の設計の中で、たまごの形がシンプルシティを崩していたのですよね。それが広場の核に思えたのを覚えています。今のデザインの中に、崩しというものがまだ足りないような気が私の中ではしているのですけれども。その辺はもしかしたら映像で考えていらっしやるのか、なぜ全部が四角になってしまったのか。その辺をご説明していただくと。あのたまごにすごく夢的なものを感じたものですから。上から見たときに、わりと分かりやすいランドアート性みたいなものをどこにおかれているのですかという話です。今日のお話の中では、四角くのところに座れますよと。ガラス張りのすごくきれいすぎるのではないかと。もう少し崩してもいいのではないかみたいなどころがありまして、ご説明願えればと思います。

(堀越共同体：佐々木)

コンペのときに、楕円形の大きな舞台作りしましたが、そこでイベントをできるようにしました。その後のワークショップで市民の方々と何度も討論しまして、例えば柳と水路の補修、水景の一つの中に例えば水稻を植えて、みんなで稲刈りをしようと。そういうイベントをしてほしいとかさまざまなご意見がございました。それはおもしろいねということで入っていて、一つの大きな楕円形のパターンではとても担いきれない。担いきれずさまざまな人々の活動を受け入れる空間が、真ん中に大きな万代広場という空間をつくって夜もライトアップし、その前に舞台があると。そういう空間として、舞台をものすごく小さくしようと。それで十分行けるだろうと。例えばオーケストラでも、横の広さが15mで奥行きが5mでは十分いけるわけです。コンペのときの絵は、そこまで考えておりませんでした。人々の活動のイベント、これもやりたい、あれもやりたいという市民の方々のご意見を考え、バックヤードも含めてステージを作ったということになっております。

(堀越共同体：堀越)

今回、屋根をシンプル化した理由は、プロジェクションマッピングもそうですけれども、

アクティビティが形をつくる。人々の映り込みがダイナミックな形を写すと。これからの時代はそうではないかと思っているのです。この四角いのは舞台ですけれども、周りに照明がありますよね。この照明をコントロールすると、例えば照明の付き方で、先生おっしゃったのは楕円とかカーブとか、夕方になりますけれども、駅に降りたときに、今日は少し楕円の形が、照明の点灯の方式とかそういう形で、もう少しソフトに形が変化するほうがいいのではないかという気がします、これからの時代には。

(上山委員)

多分、それを考えていらっしゃるのではないかと思ったのですけれども、私たちがこれをぱっと見たときに、そこまで読めませんよね。この間も藤沢委員などとお話ししたときに、まだまだ新潟らしさがでてないかと思ってしまいますので、その辺は市民の方々と活動をともにしていまして、そこから生まれてきたのだということ発信し、もっと市民の皆さんで共有すべきではないかと思いました。

(委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。ほかにございませうか。

それでは、最後の③新潟市万代広場の将来の方向性について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

万代広場の将来の方向性について、ご説明したいと思ひます。今ほど、広場の設計者の皆様から基本コンセプトですとか、現在考へている整備後の広場イメージについてご説明いただきました。また、これまでの委員会におきまして、委員の皆様からさまざまなご意見をいただきました。お手元に配付してあります参考資料1につきましては、これまでの委員会における意見と取組み方針を項目ごとにまとめております。詳細につきましては割愛させていただきますが、項目としましては、1 ページ目の①としまして、まちと広場の空間のつながり。2 ページ目が広場内の空間。3 ページ目がわかりやすさ、使いやすさ。4 ページ目が新潟らしさ、そしてキーワード。5 ページ目が官民連携による利活用。最後6 ページ目が進め方ということで、それぞれのページごとに広場の基本コンセプト、そして委員会でいただきました主な意見、そして 2023 年までの取組み方針と将来的な取組み方針をまとめてご説明いたします。

本日、次第の順に沿って都市の将来デザイン、広場計画のコンセプトや整備イメージ、委員の皆様からこれまでいただいた意見と取組み方針を取りまとめて整理したものが、資料3の万代広場の将来の方向性となります。

資料3をご覧ください。1枚目の資料につきましては、どちらかという施設整備の面を中心にまとめてございます。前回、委員会でお示ししました資料からさらに具体的に将来の方向性が見える形にしたうえで、今回は南側も含めて駅前広場から外への視点が分かるように整理してございます。

ポイントとして四項目右側に挙げてございます。一つ目、一番上がまちと駅のつながり、広がり、一体感。二つ目が、人・公共交通中心の空間形成。三番目が、わかりやすさ・使いやすさ。そして四番目が南北の役割分担でございます。資料1でご説明いたしました都市デザインの考え方とリンクするように示しておりますが、万代側赤く示している水辺・賑わいゾーンですとか、青く示しております港・創造ゾーン。これらと駅前広場がスムーズにつながり、まちとの一体感を創り出していくことが重要であると考えております。

そのためには、駅前広場から東大通りへ連続する歩行者空間や緑の列植の創出。また、東大通りの車道を狭め歩道を広げるなど道路空間再構築による広場的空間の創出。そして、利活用あるいは景観形成において駅前広場と東大通りの一体的な取組み、これらによってまちと駅のつながり、広がり、一体感を創り出していきたいと考えております。

まちと駅のつながり、広がり、一体感を創り出していく中で駅前広場や東大通りは人と公共交通を中心とした空間形成が望ましいと考えております。また、わかりやすさ、使いやすさも重要であり、観光客やインバンドなど来街者にもわかりやすい動線、案内サイン、情報発信、あるいは休憩施設など多様な機能を搭載した道しるべの設置も必要と考えています。さらに、駅の万代側と南側の役割分担という意見をこれまでいただきましたが、万代側は人が集まりまちなかへ歩き出したくなる空間として、まちとのつながりの役割。南口側につきましては、南口広場から広域的なつながりをもてるよう広域交流の玄関口としての役割をもたす必要があると考えております。

資料3のもう一枚、A3の資料をご覧ください。万代広場内の中央区分の広場を中心とした新潟らしさ利活用について将来の方向性をまとめております。新潟らしさの創出ですが、先ほど設計者からも説明ありましたように、左下のイメージのような緑の天蓋の形成、あるいは水盤や柳の列植による水都新潟、柳都新潟の演出。そして、この場所の歴史や土地の記憶の継承により広場のコンセプトである新潟の豊かな自然を象徴する都市の庭を創り出すとともに、この広場を市民の皆様たちと使いこなし、時間の経過とともに新たな新潟らしさを創っていくことが万代広場における新潟らしさとまとめております。

その新潟らしさを育て成長させていくためには、官民連携による利活用が重要であると考えております。駅前広場や道路などの公共空間と沿道の民間施設の一体的な整備が行われるとともに、その後の管理ですとか運営を担うエリアマネジメント組織の立ち上げが必要と考



えております。万代広場の整備完了までに組織も活動を開始できるよう、今後、商業関係者ですとか、不動産所有者などと意見交換を行っていきたいと考えております。

以上、今までいただきましたご意見、あるいは設計の考え方をまとめた新潟駅万代広場の将来の方向性について説明させていただきました。

続きまして、次年度以降の整備の進め方についてご説明させていただきます。次年度以降につきましては、委員やオブザーバーの皆様からいただきました貴重なご意見を参考にしまして、基本設計を進める予定でおります。併せまして、この広場設計には当初からワークショップなどで市民の皆様とかかわりを大切にしてきましたので、設計作業と並行しまして、市民の皆様のご意見を頂戴しながら進めてまいります。この委員会につきましては、必要に応じ開催を考えております。設計作業の進捗を見ながら、お声がけさせていただきたいと考えておりますので、その際にご参集をくださいますようよろしくお願いいたします。

(委員長)

ありがとうございました。ただいまのご説明にありました内容につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

(阿部委員)

商工会議所の阿部でございます。

ここまでできましたので、あとは粛々にとということだと思っておりますけれども、ぜひ、人に優しいというキーワードが入っておりましたので、日本一ユニバーサルデザインが進んだ、考え方が進んだものにしていただきたいです。先般も、北陸地方整備局長と話をされていて、サイン関係がよく分からないと。これは駅舎との絡みもあると思いますが、日本一分かりやすい情報発信等、日本一素晴らしいユニバーサルデザインで、これから具体的に進めていっていただきたいと思います。何事も日本一くらいを目指して進めていただきたいということで、最後の意見として言わせていただきました。

(委員長)

ありがとうございます。いろいろな日本一を出していただければと思います。

(事務局)

分かりました。中村委員からも、いろいろご意見をお伺いしながら、サイン、ユニバーサルデザインまたJRともいろいろご協力しながら進めていきたいと考えております。

(委員長)

ありがとうございます。

(中村委員)

中村です。広場計画のコンセプトで、36 ページくらいのところで、少し出入り口のとこ

ろの動線を交差させまして、障害物がないようにするというお話がありました。すいません、ワークショップにもかかわっていたものなので少し気になったのが、なくなった倉庫とか公衆トイレについての考え方を少しだけ教えていただきたいということと、防風ベンチというものがあつたかと思うのですけれども、その辺りも一言ご説明をいただければありがたいと思います。

(堀越共同体：中野)

公衆便所と倉庫はワークショップで必要だというご指摘を受けまして、エスカレーターの下に設置をしました。駅を降りて、特にJR利用の方の真正面のところに公衆便所、倉庫があつていいのかどうかということがチーム内および市と協議した結果、むしろほかの場所を選択すべきであろうということで、現時点ではほかの場所というところであいまいになっております。これから広場全体、また周辺施設の基本設計をしていく中で適当な位置を決めていくということになるかと思ひます。JRの駅舎の目の前には置かないというところをご了承いただいて、ほかの工事についてこれから協議をさせていただければと思ひております。

(中村委員)

防風ベンチについては。

(堀越共同体：佐々木)

防風ベンチのイメージの写真をお見せします。

ベンチの後ろにガラスの板を立てます。それ自身が防風ベンチになっているというイメージでございます。

(中村委員)

ありがとうございます。

(大江委員)

質問というか、進め方のところで1点先に確認をさせていただければと思ひます。来年度以降は適宜というふうなお話でございました。今年度、一応結論かどうか分かませんけれども、一応今回で結論めいたものを出すという趣旨かどうかということが1点と、仮にそうだとした場合、資料3といわれるものを今日の時点でどこまで了解したとか了解しないとか、あるいは、これをもとに今後どうしますとかいうことは少し共有をしておかないと、我々はまだ続くだろうと思ひていて、事務局はこれで4回いただいたので、これでやりますというふうになるとかみたいなことが想定されたので、どれくらいのイメージで今日の場を終了とお考へになっているか、お示しいただければと思ひます。

(事務局)

まさに今おっしゃっていただいたように、資料3は小さく左下に、「記載内容はイメージ

であり関係機関等とは未協議のため」といった文言を書いておりますが、これはそのまま次につなげていくために、これでオーソライズということは考えておりませんが、大きな考え方として、例えば人や公共交通の動線でありますとか、大きくは資料3の1枚目の右側に書いたこの四つの視点です。ここについては間違いなくオーソライズいただけるものかと思っておりますが、先ほど来、設計者から説明がありました中身に沿って、新年度基本設計に入る流れについてご了解をいただきたいということです。あとは、今後、若干議論になるかもしれませんが、ステージのあり方ですとか、あるいは柳という樹種が今日はメインで説明ありましたけれども、こういったところのあり方。大事なところはエリアマネジメント。この辺は市でも頑張っていかなければいけないと。周辺の方、商店街の方を巻き込んで、どういった形の組織ができるかという辺りで一生懸命やらなければいけないと思いますが、この辺を進めながら基本設計に生かすための項目の最終的な策定を、今日の段階ではまだできていませんが、新年度入りしましたら早めにさせていただいて、その時点になるかどうかは、ほかの委員会などもありますので、こういったところとの動きと整合させ、一定の時期になりましたら、皆さんにお集まりいただくのか、あるいは個別にご相談にあがるのか分かりませんが、何かしらのタイミングでご説明させていただき、ご理解をいただくことが基本設計に入る前の一つのポイントかと思っております。

日にち等はきちんと申し上げられませんが、縣市調整会議で県としてのトップのほうにも大きな方向性を理解いただく、合意いただくことが時期的なポイントになってくると思います。夏までくらいの間、各委員会、例えば交通なども含めて、この辺までならご理解いただけますよね、出しても大丈夫ですよといったところをお示しさせていただき、また市民への説明をしながら先に進めていくと考えておりますので、今日私が申し上げたようなこと、ペーパーでは出せておりませんが、概ねそのような考えでおりますので、ご理解いただければと思います。

(大江委員)

ありがとうございました。今いただいた方向性で理解したうえで、質問させていただきたいと思いますが、資料3の1ページの右の一つ目の、緑色のまちと駅のつながり・広がり・一体感の部分で、特に駅前広場から東大通方面に一体感をもつ整備をすべきという部分のお話。それから二つ目の下の赤い文字のところの人、公共交通中心の空間として駅前広場から東大通の線を充たすというこの2点については、ここにいらっしゃる方々あるいは有識者と呼ばれる方々、多くの方々が理解する部分であろうと思っております。

ポイントは、市民の方々がこれのほうがいいと思われているかということであったり、あるいは市民の方々にこれがいいと思っていただけるかどうかというような合意形成であった

り、意見交換であったり、説明であったりというところが従来欠け気味であるというところがポイントではないかと思っております。このように書いても、市民の人たちが望んでいるものではないとなってしまうと、ここに書いてしまっても何も実現しなくなるのが問題ではないかと思っているわけでございます。私がお伺いしたのは、これを市民の方々の望むものですというふうに合意形成をとる手段、あるいはとるための時間、方法。そういったものをなしに、県市調整会議で決めてしまってもよろしいのでしょうかというところについて、事務局ではどう思いなのか。あるいは、その辺をどのように計画されているのか。その辺りをぜひお聞かせいただきたいと思っております。

(事務局)

この計画にあたっては、市民もちろん全員ではありませんし、大部分かといわれるとなかなか難しいところありますが、当初のコンペの後から市民参加のワークショップ等やりながら、かなりのご意見を盛り込ませていただいているところがあります。それから少し時間がかかったということで、少し見直しをさせていただいたわけですが、一定の市民合意のうえに、今日現在があるということはいえるかと思っております。時間経過とか社会情勢の変化、あるいはさまざまな要望を踏まえた中で少し見直したものを県市調整会議にかけさせていただいて、その後、市民説明ですとか、まだ手法まで確定しておりませんが、パブリックコメントのような形がいいのか、説明会がいいのか、何らかの形で市民の皆様にご覧いただく、あるいはご意見いただくというところは必要かと思っておりますが、順序として、とりあえずトップの目を通してから市民にお見せしていこうかと考えておりました。

(大江委員)

それでうまくいけばいいのですが、もう少しボトムアップ的な意見の収集というもの。そもそもここにいるのは市民を代表して来ているのだろうといわれると申し訳ない部分もあるのですが、もう少しボトムアップ的なところをしっかりとやっておかないと、市が勝手に書いているみたいな話になりはしないのかという少し杞憂というか、余計な心配というところかも分かりませんが、そういったところが少し心配だという部分です。人、公共交通中心の空間形成という言葉とってみても、これが市民のおおかたの理解なのですと、加藤さんおっしゃいましたけれども、そうだとすると、今のBRT問題というものはなぜ起きているのだという疑問にもなるわけでございます。そのようなところが本当に市民のニーズとか意見というものを踏まえたものになっていると、どれくらい私たちはこの内容に自信を持って言えるのか。そこにもかかってくると思いますので、委員がそういった自信を持てるかどうかという部分にもかかってくると思いますので、その点について、より丁寧なボト

ムアップの集約が必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃることはごもっともで、BRTもまさに手段を目的化してしまったところがあるのではないかという気がしております。冒頭説明しました都市デザインの考え方も、これからのまちづくりの新潟の考え方、古町から新潟駅に向かって伸びてきた都心の軸。これを新たにこの新潟駅から港のほうに返していく新しいまちづくりを進めましょうという、こういう考え方も含めて、冒頭申し上げた並行的に進んでいるものも全部リンクしていますので、横断的に横串を通したうえでまちづくりに対する行政としての立場を明確にしつつ、言われるように関係者の方々にそれを共有していただけるような取組みを丁寧に進めていきたいと考えております。

(委員長)

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(平山委員)

市民の方に説明する資料としてというお話が最初にあったと思うのですがけれども、資料2と資料3の違いが先ほどから少し気になっていて、それについてはどうかと思って発言をあまりしなかったのですが、半島型のデザインが最初にあったわけですが、今日の資料で2では全くそれがなくなっています。資料3の背景としては道路のところはまだ緑の柳が植わったかたちの絵ですよ。2枚ともそうになっていますが、その辺の差があるので、どちらも市民に対する資料となるのであれば、やはり同じく合わせたものがよろしいのではないかと思います、少しその辺について教えていただけますか。

(事務局)

資料2のほうに半島型がないということで、私ども委員会の中で、広場とまちが近くなるには、こういった半島型のほうがよろしいのではないのでしょうかという提案をさせていただいております。ただ、資料2については、私どもと設計者とのすり合わせ不足もありまして、以前のままの絵が出ておりますので、その辺は修正しながら市民の皆様にはお見せしていきたいと考えております。

(永田オブザーバー)

ありがとうございます。今日いろいろと過去の経緯もいろいろ言っていたので大変分かり形になりまして、どうして今の形になってきたかというものが大変よく分かったので、どうしてこれが最初に出てこなかったのかというのが一番の疑問でして、逆にいうとこれが出発点なので、最後の最後にこれが出てきたということが、逆にいうとこれが結論にすぐに結びつけられて、今先生方も言われましたけれども、県としても少し不信感を

かっているというところがあります。何をどうやって決めていくかという話の中で、こういう前提条件があって、こうあってこういうところ決めていきたいと思いますという委員会の筋が少しよく分からなかったということがあって、これで終わりますという話につきましては、やり方そのものについてもう少しうまくやられたほうがいいのかという素朴な疑問がありました。今まで、決まっていたことを最初にご説明いただいて、そこから始まって。その後でこうしたらどうかという話を言っていただければいいのかと思っております。

都市局としましては、前回からも言っていますけれども、基本的に言葉としてはまとめていただいていますけれども、やはり動線の話の中で、人の動線と公共交通、特に基幹交通網というものがありますから、その話と、車の動線の話がどのように積み重なっていくのかということが結局よく分からなかったところについて少し不満があります。新潟駅から入って、若い人が行くのはやはり万代なのです。万代に行く動線が、東大通りから万代に行こうという話をお考えになっているのか、それとも弁天通りが主で行かれるのかという話が、結局、最後までよく分からなかったというところは大変不満があるところなので、これで終わりという話には少し疑問を持っております。

今、半島の話もありましたが、せっかく連続立体で駅が上がるので、車が今まで行けなかったところ、遮断されたところが通過できるという話になって、その交通網ができるわけです。都市計画道路が駅の両側にもできる形になってきます。先ほど佐々木さんからご説明いただきましたように、どちらかというところのほう今まで以上にイベントをやって人を寄せてこようというお話なので、新潟の交通網の中では7割くらいが車の交通という話なので、人を寄せてくるのに、車で来るような人をどうやって呼び込むのかという話が必要になってくるのではないかと。例えば連続立体の駐車場を持つてくることによって、駐車場をこういうふうに再構築するのですよという話で、将来の方向性として組み合わせさってくるようなことが必要ではないのかと。資料3の話の中で先生方と議論をしていただいたけれども、新しい話が入ってこずに、結局、半年前と変わらない状況で終わったというところにつきましては大変疑問があります。これを市民の方に出されるというやり方につきましても、何があっただけでどうということが決まって、今後の課題は何があるというところをもう少し分かりやすいように整理、説明等していただければというお願いでございます。よろしくお願いたします。

(事務局)

交通の問題とか、広場の議論以外の様子もいろいろ絡んでくるということは承知しております。まさに、横串の検討のところとも絡むところですが、私どもも今言われたような課題は認識しておりますし、また新潟県とは一緒に検討させていただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(水口オブザーバー)

いろいろご苦労さまでございます。私のほうから1点だけ。前回も少し発言させていただいたのですけれども、駅は結節点として、利用者の利便性が大事だというお話をさせていただいたかと思います。特に、例えば新幹線から空港に行くのに、リムジンバスにスムーズに乗り換えができるということも、非常に大事なことかと思っています。そういう観点でいくと、資料3の1枚目の右側にある、「わかりやすさ・使いやすさ」というタイトルで、非常にわかりやすさと使いやすさが大事かと思っているのですけれども、わかりやすさしか書かれていなくて。例えば観光客にも分かりやすい動線と書かれているのですけれども、分かりやすいだけではなくて、やはりわかりやすく使いやすい動線という形で、両方の観点でぜひ入れていただけたらと思います。

(事務局)

ごもっともなお話ですので、わかりやすく使いやすい動線なりをさらに検討してまいります。

(委員長)

ありがとうございました。ほかに何かございますでしょうか。資料3の1ページ目右側でなにか足りない項目とか。

(森田オブザーバー)

今、新潟県土木部の永田様からのお話と非常に通じるかと思っていますけれども、万代広場についてのイメージを見させていただいて分かりやすいと感じたのですけれども、例えば資料3の2枚目にいきますと、先ほど若干意見ありましたけれども、半島のところがオレンジでつながって、道がバス通りのほうから分断されてしまっているのです。完全にここは車が通れないようになっていくイメージなのです。

1枚目に戻ると、駅の中に入っていく一般車等という黄色の文字で、左側から一方通行に入って行くし、右側からも一方通行、今と逆の規制で書かれているようなイメージが非常に強いです。もちろん関係機関とは未協議のためうんぬんということで、これをもってしてすぐさまどうこうというわけではないのですけれども、非常にイメージが偏り過ぎてはいないかと。これまでの議論がこういう中でだったのかということも確認させていただければと思います。

(事務局)

私どもは、広場とまちがすぐつながるようにということで、広場周辺は、通過するだけの車は入れないという考えがそもそもありまして、それをさらに発展させたイメージがこのようなイメージでございます。

2回目だったと思うのですが、たしか姫路市の駅前がこのようなイメージで、当初の都市計画決定は道路があったのですが、いろいろ議論していく中、市民、商工会議所と一緒にしていく中で、道路があると駅とまちが分断するのでやめたということを説明させていただきたいと思います。私どもとしても、将来的な方向ですので、これが広場完了の2023年にできるかという、それは難しいと考えておりますが、目指す方向としてはこういった方向を目指していきたい。こういったことを目指しながら、市民とは意見交換しながら、新潟の万代広場とまちのつながりはどういった方法がいいですかということで議論をしていきたいと考えております。

(森田オブザーバー)

将来的には、万代口のほうにはもう一般車両は基本的には入れないという方向性だという認識でよろしいでしょうか。

(事務局)

今の時点では、それは決められないだろうと思っております。私どももそこについては、先ほど永田オブザーバーからもお話ありましたように、これからまだ議論が必要だと思っております。今回、駅の広場にさまざまなご意見いただきましたので、そのいただいたご意見を我々尊重しながら、基本設計を進めていく中で、こうだということではなくて、考え方としてこういうこともあるのではないかとということで、関係者の皆様の意見を聞きながら、公共交通と人だけでいいのかと。車の利用者の話もありますし、周辺道路との交通量的な整合性の問題もありますし、また面しているビルの再開発の動きなどさまざまな問題がありますので、考えられる課題の一つとして関係機関の皆さんとご協議できないかと思っております。基本設計は2023年の供用開始というものをねらっておりますので、それに向けた整備を主体にしますので、この絵というものは、東大通に中央分離帯がある中で、それほど簡単に詰まる話ではないだろうというのが本音でございます。

(窪田オブザーバー)

北陸地方整備局の窪田です。

先ほどからお話があがっているところでもありますけれども、基本的に市民の方に説明される資料を作っていくということで、自動車の利用者が多いということもあって、車でこれまで通過していた人だったりとか、車で行き来、周辺に来ていた人たちというのが、今回の整備によって今後どのように、自分たちの動線だったりとか、どこに止めてどう動くのかというようなことがよりイメージしやすいように、車の動線のもっていき方だったりとか、周辺の駐車場の状況だったりというようなことがどう変わっていくのかということは、基本的には今後いろいろと変わっていくという中で想定の話になってくると思いますが、ただ、



どういう形が想定できるのかということをも具体的に示せるような資料を構成していただけたらと、説明する側としても、こういうことが想定されるのでこの部分はこうしますといったことで、駅広の形のほうに方向を集約していくという説明の仕方にもなっていければと思いますので、そういったことを少し考えていただければよいかと思いました。

もう一つ。基本的に通過交通を排除して、駅広含めて東大通とその周辺を歩行者と公共交通の空間にしていくというところで今までできていると思うのですが、資料3もそうですし、資料1の4ページの新潟市の都市デザインにも相互につながっているような話だと思うのですが、弁天通にだったり、港・創造ゾーンのほうにつながっていくような通りというところの位置づけといいますか、この二つの通りと駅広とのつながりというものが線で示されているだけで、駅広からどう見えて、それぞれの通りだったりゾーンというものがどう性格づけられて、そこにどう誘導していくのかというところが、今日出てきている資料の中からは見えない部分があったりしたので、歩行者をどのように誘導していくのかというところがもう少し補強されたり、パスとかの中でも弁天通りのほうはどう見えていくとか、そういうところがもう少し資料として出てくれば、より説明として全体が見えるような形になっていくのかなと思いました。

(上山委員)

今のお話もそうなのですが、結局、アーバンデザイン会議に期待すること大だと思うのです。これからそういうふうに着地していく。着地していくということがすごく重要で、特にデザインは最後に出来上がる場がすべてです。毎回言うようではありますが、最後をどう着地して、だれがやってどうできたかということのほうが大きいです。例えば、我々がこれだけディスカッションしてきたと。しかし、第2回で説明したかもしれないのですが、どういう発注の仕方をされるか。今までのやり方(単なる入札方式)では決していいものができません。どうやって国、市、あるいは県が一緒になって、新たな新潟発注方式のようなシステムを作り上げていけるかが鍵だと思います。最後まで責任を持ってこのグループが関わることにしなければ今まで時間をかけて検討してきた市民の皆様の期待に応えることは難しいと思います。やはり新潟というのは私たち日本中が期待をもって見ているのです。後発だからこそ発信できるという強さがおありになる。いくらデザイン、方向性がよくてもできたものが何?ということになったら終わりなのです。基本設計とおっしゃっていらっしゃると思いますが、基本設計だけではなくて、基本設計、実施設計、現場を監理するということがどのくらい大切かということをもみなさまで共有していただきたい。

これからの時代、あらたな新潟方式が他の都市のアーバンデザインのモデルとなるようなものをおつくりになることを祈念しております。最後に老婆心で申し上げて、私はここから

去りますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(委員長)

ありがとうございます。いつも貴重なご意見ありがとうございます。さらに、まだまだ関与していただければと思ひます。ほかに何かございますでしょうか。

(大江委員)

行政側の委員の言っていることも、方向性が立場で違ふと思つたので。永田オブザーバー、あるいは森田オブザーバーは、勝手に決められると困るという部分を中心とするご意見だつたと思ひますし、窪田オブザーバーは、逆にもう少し細かく決めてくれないと市民に示しても分からないではないかという意見で、もちろん、各者とも心配しているのですけれども、意見の方向性が、逆とは言いませんけれども、異なる部分の意見だつたと思ふのです。私が最初に申し上げたのは、それらをどっち向きで今後進めるのですかということをお願いしたつもりなのです。今回決めたというのは、どこまで決まつたということになるのですかということだと思ふのです。そこがはっきりしていないので、このものをどう使つて今後ご意見としていこうかということがはっきりしないので、そういう混乱した議論になるのではないかと私は思つたのです。別に私もこの緑とか赤が間違っているというつもりは全然ないし、いいことだと思つているのですけれども、いいことだと思えばこそ市民の方にどう合意形成していくかということと、関係機関にどう合意形成していくかということが両方あると思ひます。そこが見えないので、みんなこれでオーケーと言つていいのかということにすごく心配していると思ふのです。私も含めてなのですけれども。なので、そこをみんなが今後もこれをずっとローディングしながら、市民の方々と意見交換しながら、これを完成版にもつていくという道筋を、ぜひここで事務局の方向性を見せていただきたいと思つているのです。私の言っていることも違ふと思えば、ほかの行政委員から言つていただければと思ひます。

(事務局)

私も、行政マンなので行政の立場でいろいろ心配される皆様の声は本当に貴重だと思つています。実は、この委員会をあげるときも、我々内部で問題になつたのですが、新潟が単純に拠点化、個性化といつても、具体的にどうまちづくりに対して哲学をもつてストーリーをもつて作り上げるか。それを作っていくのは非常に難しい問題だと思ひました。特に、駅については駅広の議論だけで済まない。駅の機能、行政のエリアだけではなくて民間と連携してどうやっていくとか、土地利用、交通の問題も、新潟市は基幹公共交通軸の整備というものを進めてきましたけれども、冒頭に大江さんが言われましたようにBRTというものが、BRTの本来のねらいとは違ふところで、市民の方々に我々の意図したものが伝わらなかつたということがすごく反省として残つています。そういったさまざまな問題がある中で、本

来、これはもっと早く議論すべきだったのではないかという反省をもって、設計者の方々にももう一度原点に戻るのではなくて、進んでいますので、税金を使う中で最大限の効果を出すためにもう一度議論の場にのせたいというのがスタートでありました。

我々も、委員会ばかり立ち上げてこれどうやってまとめようかというところが非常に頭の痛い問題で、多分この駅広の問題だけは駅広だけで市民の方に説明して納得していただけるものでもないと思っていますし、抽象的な言い方になって申し訳ないのですが、先ほど加藤参事が言いましたように国、県、市、経済界も含め関係する方々に説明しつつコンセンサスを作っていくかという問題もありますし、市民への説明の仕方、一般的なやり方でぼんとやることで通るのかどうなのか。この後、まちづくり懇談会という上位の会議がありますけれども、結果だけでなくやり方を含めて関係者の皆様の意見を聞きながら整理を急いでかけていきたいと思っています。大江委員、答えになってないのですけれども、ぜひアドバイスをいただきながら、進め方についてもまたご意見をいただきたいと思っています。

(事務局)

先ほど、並列でいくつかの検討会、委員会が進んでいると申し上げましたが、新年度のある程度の時期に一定の方向性をお示しできる段階がくると思います。そのときに、全体を総括して、皆様にご説明させていただきます。そのときには、多分、ほかの委員会、検討会でも同様のご意見が出てくるのではないかと考えているところでございまして、それらを含めた形で一つの方向にもっていくための努力を進めてまいりますので、ご協力をお願いしたいと思います。今後とも皆様のご意見を伺いながら、きちんとまとめられるように頑張りますので、ぜひご協力をお願いいたします。

(佐野委員長)

細かいところなのですが、資料3でわかりやすさ、使いやすさの中に入っていると思うのですが、高齢者、障がいを持った方とかそういう方が増えていますので、ユニバーサルデザインは常識だから書かないというのかもしれませんが、一言書いていただいたらいいかと思います。

(永田オブザーバー)

全然レベルが違う細かい話です。歴史のものもいろいろ作っていただいてありがとうございます。今の駅前広場というものは県で昭和30年代に区画整備事業を初めてやらせていただきました。今の駅前でもやらせていただいたのですけれども、そのときの完成の後に記念という形で、昔、駅前の万代広場に裸婦像というモニュメントを作っていただいて、駅広を整備するからということで、駐車場の横の公園に本設なのか仮置きなのか置いていただいているのですけれども、あれは仮置きですか。戻さないのですか。あれはあのままという話で

すか。そこがよく分からなかったのです。

(事務局)

移設です。

(永田オブザーバー)

恒久的な移設で持って行ったということですね。前は駅のど真ん中に置いてありましたね。そういう歴史のものを出していただいたので、いろいろ歴史のものがいろいろあると思っています。

こうやって関係者がみんな集まってやっていますから、基本的には新潟市がいろいろやられるものに協力していこうというところは一致団結しているところがあるので、もう少し新潟市がこうしたいのだという、ぜひともこうしたいという熱意がある説明をもっとやっていただければ大変ありがたいと思っていましたので、引き続きそういうところ期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

決意表明を。今年度最後だと思っていただきたいと思います。また、新年度には、こういう方向だということを含めて、皆さんご理解いただけて、一緒に進んでいただけるようなご説明をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(永田オブザーバー)

市民のご意見を聞いてとか、いろいろな人のご意見を聞いてという話で、意見はいろいろな意見があるので、聞けば聞くほどいろいろな意見出てくるので、ばらばらになっていくので、まとまるはずは絶対はないので、ただ、意見の聞き方という中で、市として、基本方針として、こういうふうな基幹交通をやっていく、その中でこうやっていくと。都市の中心としては、市としてはこういう方向性でいこうと思っています。その詳細については関係者の皆さんでこういうふうに詰めていったらどうですかという、流れをもっと主体的に言うていただくほうが、今回、委員会を3回、4回やらせていただいて分かりやすかったかなと。どこにいかれるつもりなのかという話が少し分かりづらかったのかという中で、先ほど大江委員が言われたところもありますけれども、どういうところが基本路線で、どういうところが枝葉のところで、そのところについてどういうところを積極的に、それよりはどういうところを詰めていかないといけないという話が、1回目、2回目、3回目の委員会では少し見えにくかったというところがあるので、私が理解不足なところがあるのですけれども、そういうものを分かりやすくしていただくほうが、同じようなことが起こらないのかなという話をさせていただきたいと思います。

(事務局)

言われるとおりだと思います。1回目のときに広場の基本コンセプトは継承しますということの説明だけで、我々事務局として安易に飛ばしすぎたかとすごく深く反省しておりますし、その途中で、今日も委員会で出ましたけれども、駅の中と広場のつながりというところが、JRともいろいろ検討している中でまだ十分にお示しできなかったところも積み残しとしてあるような気もしています。周辺の民間開発の動きですとか、駅の周辺に遊休地、低未利用地が出ておりますので、現在、仮線を置いている土地ですとか、仮ホームを置いてある土地ですとか、市の開発公社が持っている土地とかあります。こういったところも全体を面的に見た中で、動線計画なり使い方も整理していかなければならないと思っています。

特に、駅南というところについて、今、南口広場で問題がないかということ、まだ都市交通の視点では駅直下に交通広場を作って、都市内交通としてのバスの結節機能は十分果たせるのですが、観光ツアーバスですとか、高速バスですとか、市内のいろいろなところの送迎バスの取り扱いというものが南口広場に非常に集中して、先が詰まっていて、バスが着いてから10分以上降りられないみたいな状態も出ています。こういった現状の課題についてどう対応しなければいけないかとか、かなりいろいろ整理をかけていかなければだめだと思っていますので、そういうところを議論しっぱなしで終わらすのではなくて、先ほど加藤参事が言ったように、全体を俯瞰した中でお示ししていかなければならないのではないかと考えております。また、交通系については、交通戦略プランの個別会議の中でかなり詰めてきてまして、調査もやっていますので、その結果なども、場合によっては今後お示ししていきたいと考えております。

(委員長)

ありがとうございました。ほかに、ございますでしょうか。全体を通してでもかまいません。何かございますでしょうか。

(橋本委員)

いろいろ議論した中で、資料の3のような将来構想もよく見えてきて、広場の2列柳の行き先みたいなものもイメージできるいい資料ができていると思います。先ほどから、委員の方も心配で、いろいろなコメントしていると思うのですが、プレゼンの言い方とか持っていていき方、話し方など、順番を間違えるととんでもなく火だるまになってしまうのではないかと、その辺を気をつけて対応していただければと思います。都心軸のオアシスになり、また人がそこからいろいろなところに渡っていく、新湧らしい、また近未来的なモニュメンタリーを置くというよりも人々の賑わいでシンボルを創り出していく。すごく素晴らしいプランになっているのではないかと思います。あとは、いろいろな方と協議しながら完成を目指して行ってください。

(委員長)

ありがとうございました。

他にございますでしょうか。オブザーバーの方も何か、言い残したことがあれば。

それでは、本日は第4回ということで今年度予定していた最終回となります。最後に私から願いを少しさせていただければと思います。

これまでの議論、意見交換をもとにおおよそのイメージ、方向性がまとまっていると思いますが、今後はその方向性が実現できるよう商業関係者や市民との意見交換をしっかりと行い、合意形成を図りながらよりよいものへ進めていただきたいと思います。特に、駅というものは交通結節点でありますので、JRなり新潟交通なりの交通事業者と綿密に打ち合わせしていただければと思います。特にサインとかが当然駅から駅前広場を出て少し変わってくるとまた分かりにくくなるのでと思いますので、その辺もよろしくお願ひしたいと思います。

駅前広場のコンセプトが、市民と一緒に作るということが非常に大きなコンセプトで、ハードができただけでは未完成で、これから何十年かけて育てていくということが非常に重要なコンセプトだと思いますので、そのためにハードだけではなくてソフトのパワーが必要だと思いますので、その辺もしっかりやっていただければと思います。

続いて、次第3の「その他」について、事務局より何かあれば、ご説明お願いします。

(事務局)

非常にタイトなスケジュールで、今年度4回開催させていただきました。委員ならびオブザーバーの方からは大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。先ほどご説明させていただきましたが、委員やオブザーバーの皆様には引き続きこの万代広場の整備にはかかわっていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。また、基本設計を進めていく中で、委員やオブザーバーの皆様方に直接ご意見をお伺ひしたりすることがあるかと思っておりますので、その際はよろしくお願ひいたします。

(委員長)

ありがとうございました。最後に、今回で最後になりますが、何かあればお願いします。

(上山委員)

新潟方式をぜひ作っていただいて、それが全国に波及していくようお願ひしたいと思います。クリエイティブをお願いします。

(委員長)

ありがとうございました。

それではないようですので、進行を事務局にお返しいたします。

(司会)

ありがとうございました。

以上をもちまして、第4回新潟駅万代広場等整備検討委員会を終了とさせていただきます。

本日はありがとうございました。